

放射線治療におけるタスク・シフト/シェアを考える

東北大学病院

佐藤 裕幸

弘前大学医学部附属病院 小原 秀樹

【背景・目的】

2021年5月に診療放射線技師法が改正され、診療放射線技師の業務拡大に伴い、タスク・シフト/シェアの重要性と責任が増した一方で、働き方改革による業務効率化と超過勤務削減が求められている。これらは相反する面も含んでおり、タスク・シフト/シェアによって、特定のスタッフに業務と責任がさらに集中することによるスタッフ間の業務バランスの懸念もある。東北・新潟地方は、経営的観点からもマンパワーが不足している施設も少なくなく、これらの課題は深刻となっている。良質かつ適切な医療を提供するためには、マンパワーの効率的活用は有益である。

そこで本企画では、各施設での事例を含めた課題共有と対応策の議論を通じ、各施設の臨床現場で抱える課題の解決への一助となることを目的とした。「放射線治療におけるタスク・シフト/シェアを考える」と題して、お二人の先生方にご講演いただいた。

「放射線治療計画作業の補助」では、少ないマンパワーで臨床を行う必要がある施設の状況で、技師によるリスク臓器の輪郭設定やIMRT治療計画立案において、診療プロセスの効率化と治療の質の維持を両立する体制構築の経験を講演いただいた。「患者位置情報の一次照合」では、画像誘導放射線治療において、常勤スタッフが少ない施設の状況で、放射線治療の質を担保する体制を構築した経験を講演いただいた。各施設における課題や問題点を踏まえ、業務効率化のポイントや考え方、人材育成や施設内標準化について解説いただいた。

【まとめ】

タスク・シフト/シェア前後での業務スケジュールへの影響や業務量の変化についても触れ、治療現場と研究活動において活躍されている講師の先生方の実践的な解説により、大変有意義な企画となった。本企画が、東北・新潟地方で放射線治療に従事されている皆様の臨床を改善する一助となれば幸いである。